

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
~6783



「にいがた畜産女子会」が誕生しました!!



目次

- ◆特集 「にいがた畜産女子会」が誕生しました!!
 - 会長あいさつ/活動内容について/これまでの歩み… (2)
 - 御祝いのメッセージ/話題提供&勉強会 …… (3)
- ◆全国の和牛が集結!! 第11回全国和牛能力共進会開催
 - 牛の目利き審査では阿部恵梨さんが最優秀賞!! … (4)
- ◆「養豚農場PRRS撲滅対策支援事業」スタート!!
~新潟県内のPRRS撲滅し全県で清浄地域を目標に!~
 - PRRS養豚講演会開催のお知らせ …… (5)
- ◆イベントコーナー
 - 協同組合まつり/ふれあい畜産フェスタ2017/
畜産経営セミナー …… (6)
- ◆声のコーナー…………… (7)
「変化」
養豚経営：関川村
(有)山口ファーム 山口 淳一
「これまでとこれからしたいこと」
酪農経営：胎内市 高井 大輝
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより…………… (8)
新潟市：(有)フジタファーム
- ◆新役員紹介…………… (8)
- ◆県民公開講座開催報告…………… (8)
- ◆編集後記…………… (8)

「にいがた畜産女子会」誕生!!

特集

平成27年3月から毎年数回交流会や現地見学など様々な活動を行ってきた畜産女子会を「にいがた畜産女子会」(事務局:(公社)新潟県畜産協会)として組織化しました。



平成29年9月13日にアートホテル新潟駅前(新潟市中央区)を会場に畜産女性や関係団体など、お子様を含む計16名の参加により発会式を開催しました。

女子会を組織化したことにより、今まで以上に畜産仲間といろいろな活動をしながら県内はもとより、全国、世界を見据えて女性の視点で畜産を盛り上げていこうと思っております。



会長あいさつ

会長 緒形 ゆかり

このたび私たちは「にいがた畜産女子会」を立ち上げました。

これまでも年に数回集まり、様々な活動を行って参りました。お互い日々忙しい中、このような会で皆さんと時間を共有できることをとても幸せに思います。今回組織化したことで定期的に時間を確保できるようになり、さらに有意義な企画ができるのではないかと考えております。

この女子会が畜産に携わる女性の人生にたくさんの彩(いろ)を添えるものとなるよう願っております。大勢のご参加をお待ちいたしております。



活動内容について



テーマを決めた勉強会や現地視察、研修などの他に会員同士や他の農業女性との交流会、6次産業化の視察などを年数回程度、企画します。

中央団体等の事業を活用して他県の畜産女子会との交流も考えております。

会員となった後、やってみたいこと等をぜひ提案してください。

その他



- ・入会金や年会費の徴収はありません。
- ・行事の案内等は、会員本人宛てに発送します。

事務局(畜産協会)からの情報提供もあります。

- ・畜産協会の会報誌や畜産に関する経営情報誌の送付
- ・他団体が開催する勉強会などの案内
- ・その他、畜産経営や女子会活動に活かせる活動
・・・など



これまでの歩み



☆これまでの活動をいくつか紹介します! ☆

1 交流会・勉強会(平成27年12月7日)

新潟市中央区の新潟東映ホテルで、「稲花-ineca-食べる通信 from 新潟」編集長の手塚貴子氏を招いて、農作物のおいしさを伝える方法などについて学びました。



2 ガーデニング教室（平成28年10月28日）

新潟市北区にあるガーデンカフェ「かものほし」でオーナーの解説のもと、花の寄せ植え作りを学び、ランチをしながら交流を深めました。



3 6次産業化等事例の現地視察

（平成28年12月8日）

新潟市江南区にあるロイヤルヒルホルスタインズの牛舎とチーズ工房を視察し、実際にチーズ作りの体験をしました。



他にもワイワイがやがやの活動盛りだくさん！！

御祝いのメッセージ



公益社団法人中央畜産会
資金・経営対策部長

武田 航 様

この度、にいがた畜産女子会の発足に当りまして心からお祝い申し上げます。

畜産に携わる女性の持つ能力と感性は畜産現場において大いに発揮されるものであり、日本の畜産を支えてきたと言っても過言ではありません。

にいがた畜産女子会の活動を通じて、畜産に携わる女性の力や必要性を広く発信していただきたいと存じます。

これからも、皆様の経営と生活がより輝かしいものとなることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成29年9月吉日



「にいがた畜産女子会発足」

新潟県農林水産部畜産課
主任 村山 剛 様

にいがた畜産女子会の発足おめでとうございます。

畜産女子会は、畜産に携わる女性が畜種や地域を超えて集まった県内初の取り組みであり、女性ならではの視点とネットワークを活かしたこれからの活動が、県畜産業の振興に繋がるものと期待しています。

にいがた畜産女子会の今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。

話題提供 & 勉強会



中央畜産会の原子亜理沙氏から全国の畜産女性の活動事例について話題提供がありました。

勉強会では、コピーライター・プランナーの大平マミ氏から「その考え、もっと有効に使いましょう！『考えの整理整頓術』」として、何かを受けて感じ、生じる思いや、日頃抱えている気持ちなど、「見えない」ものを「見える化」し、それらをどのように実行するかの方法を学びました。

勉強会はワークショップ形式で行われ、参加者それぞれが「目標を見える化」するための作業に取り組みました。



勉強会の様子

会員募集!!



あなたも「にいがた畜産女子会」の仲間になりませんか？随時受け付けております！お気軽にお問い合わせください。

連絡先：（公社）新潟県畜産協会

担当：佐藤紫織、鈴木奈美子

電話：025-234-6782

ホームページ：<http://niigata.lin.gr.jp>

E-mail：shien@ae.wakwak.com

全国の和牛が集結!! 第11回全国和牛能力共進会開催 牛の目利き審査では阿部恵梨さんが最優秀賞!!

平成29年9月7日（木）から11日（月）まで、宮城県仙台市の「夢メッセみやぎ」及び「仙台市中央卸売市場食肉市場」において、全国の優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果や優秀性を競う全国和牛能力共進会（全共）が開催されました。5年に一度開催されるこの大会は今回11回目を迎え、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」の開催テーマのもと、39道府県から史上最多となる513頭が出品されました。



大勢の来場者とズラリと並ぶ選び抜かれた出品牛

当県からは、雄牛・雌牛の改良成果を月齢別に審査する「種牛の部」に2頭、枝肉の肉質を審査する「肉牛の部」に2頭が出品されました。出品者、結果は下表のとおりです。

（敬称略）

区分	出品者	出品牛	受賞結果
種牛の部 第2区	山口 孝平	みわ2	2等賞1席
種牛の部 第3区	佐藤 豊紀	あすか	2等賞4席
肉牛の部 第9区	遠山 幸一	村上1521	優等賞21席
	河内 松雄	百合子	2等賞

また、大会初日には和牛の目利きを競う審査競技会が開かれ、女性、後継者、高校生の3部門に75人

が出場しました。当県からは3部門に3名が出場し、女性の部で最優秀賞に長岡市の阿部恵梨さんが選ばれました。

（敬称略）

区分	出場者	受賞結果
女性の部	阿部恵梨（長岡市）	最優秀賞
後継者の部	小澤成美（南魚沼市）	優秀賞
高校生の部	塚田 玲（高田農業高校）	-

全国1位に輝いた阿部恵梨さんにインタビューをさせていただきました。



大会まで、自分の牛や繁殖農家の方
に供していただいた牛を見て勉強しま
した。受賞の瞬間は、まさか自分が最
優秀をいただくとは思っていません
ので、とてもびっくりしました。今後
はこの経験を活かして、良い目で良い
牛を残していきたいと思っています。
皆様の応援、ありがとうございました。

また、会場では宮城県の紹介ブースや畜産関係企業等のPRブース出展、24道県の銘柄牛を試食できるイベント等、様々な催し物が開催され、畜産関係者のみならず、消費者の来場で大いに賑わっていました。

新潟県単独事業「養豚農場PRRS撲滅対策支援事業」スタート!!

～新潟県内のPRRS撲滅し全県で清浄地域を目標に!～

●新潟県内のPRRS被害状況

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）は繁殖豚の流産や子豚の呼吸器病を引き起こすウイルス病の豚の疾病で、被害が大きいことから、届出伝染病に指定されています。県内では子豚の発育不良等で、年間3億円の被害が生じていると試算されています。

ウイルス病であり治療方法はなく、ワクチン接種による予防しか方法はありません。しかし、子豚時には細菌やマイコプラズマ等、呼吸器病の原因は多く、また複合的な感染などにより清浄化は困難とされてきました。

●PRRS清浄化へのきっかけは

新潟県中央家畜保健衛生所は慢性疾病であるPRRSを清浄化する方法として、野外株に感染する前に適期にワクチンを接種することにより、PRRSに感染しないことを発見しました（平成25年度新潟県家畜保健衛生業績発表会集録）。また、その農場のPRRSウイルスの動きをステージ毎に把握するためにそれぞれ採血して血清中の抗体やPCR検査を口腔液で代用できることを証明し（平成28年度新潟県家畜保健衛生業績発表会集録、ロープを豚になめさせて口腔液を採取する「ロープ法」）飛躍的に検査効率が向上しました。

●PRRS撲滅への可能性と「養豚農場PRRS撲滅対策支援事業」の誕生

PRRSが清浄化できる方法とその検査方法が確立できたことから、県全域での取組が可能となりました。既に県内ではPRRS清浄化を維持している地域があります。

平成28年現在、新潟県内養豚場123農場中42農場（34%）がPRRS陽性で、うち36農場（母豚4,400頭飼養）が一貫経営の事業対象農場です。

事業計画としてはその36農場を2年ずつ、一次は平成29～30年度22農場、二次は平成30～31年度14農場の子豚にワクチン接種するもので、ワクチン費用の2分の1以内を補助します。

事業主体は当協会で、予算は平成29年度7,700千円、平成30年度15,000千円、平成31年度7,300千円の30,000千円の新潟県単独事業です。

●養豚農場PRRS撲滅対策支援事業の取組状況

平成29年度事業実施計画認定申請では、21農場62,552頭分のワクチン購入計画申請が出され、各農場でワクチン接種が実施されています。

●事業実施（清浄化）のポイント

県家畜保健衛生所は事業実施（清浄化）のポイントとして、以下の7点をワクチン接種を提案する条件としています。①農場におけるウイルス動態が把握できていること、②繁殖豚群が免疫的に安定していること、③哺乳豚への野外感染がないこと、させないこと、④ワクチン接種が3週齢以上で接種できること、⑤ワクチンテイクするまで野外感染をさせないこと、⑥バイオセキュリティが出来ていること、⑦生産者に強い意思があること、です。

今後とも、農場との信頼関係を保ち、各家畜保健衛生所の指導の下で成果を上げ、県内PRRS清浄化を目指しましょう。

PRRS養豚講演会開催のお知らせ

と き 平成29年10月11日（水）
午後3時～4時45分
と ころ 新潟県自治会館201会議室
講 師 (株)スワイン・エクステンション&コンサルティング
代表取締役 大竹 聡 先生
内 容 「PRRS撲滅対策
～世界と日本、現在とこれから～」
話題提供 「養豚農場PRRS撲滅対策事業について」
新潟県下越家畜保健衛生所
企画指導課副参事 村山修吾 先生
申込み 当協会まで（参加無料）
TEL：025-234-6783
FAX：025-234-7045
E-mail：eisei@ae.wakwak.com
締め切り 9月29日（金）

お早めどうぞ!

イベントコーナー

第19回協同組合まつりに参加します。

◆ご来場をお待ちしております。◆

当協会は、消費者の皆様には畜産を理解いただき県産畜産物の消費拡大を推進することを目的に「第19回協同組合まつり」（主催：新潟県協同組合間連携推進協議会〔事務局：県農業協同組合中央会〕）に10年ぶりに参加（出展）します。

例年1万人近くのお客様が来場されるとのことで、新潟の畜産をしっかりと宣伝したいと考えております。なお、当協会のブースはステージ脇に設けておりますのでご来場の際は、是非お立ち寄りください。

○と き：10月22日（日） 9：30～15：30
○ところ：新潟市産業振興センター
（新潟市中央区鐘木185-10）

○ 当協会の出展の内容

- ・スローガン
～魅力・元気いっぱい!!新潟の“ちくさん”～
- ・出展内容
 - ① 9月に誕生したての「にいがた畜産女子会」メンバーが手掛ける6次産業化商品の紹介とジェラート・ソフトクリームの試食提供
 - ② 県産畜産物の安全・安心の取組み「畜産安心ブランド生産農場」の認定制度を消費者にPR
 - ③ 県産畜産物のブランド「にいがた和牛」・「にいがた地鶏」紹介と「にいがた和牛」の試食（にいがた和牛の試食は、「JAグループ新潟」のブースで行います。）

○ 主な出展団体と内容

- ・主な出展団体
JAグループ新潟、県酪連、県民コメまつり、県森林組合連合会、県漁連・新潟漁協、県生活協同組合連合会、NHK新潟放送局
- ・各ブースでのイベント内容
県産農畜産物等の試食・販売
クイズ・アンケートの実施により粗品進呈
こども対象ゲーム、木工教室、ほか多数あり。

○ ステージイベントの内容と開始時間

ステージイベント	
10:00～ 協同組合PRコーナー①	 <p>ワンワンとあそぼうショー 時間 1回目 10:30～ 2回目 14:30～ ※観覧者の持ち物を置いての席とはやめてね。</p>
10:30～ ワンワンとあそぼうショー①	
11:20～ RYUTistライブショー①	 <p>RYUTist ライブショー 時間 1回目 11:20～ 2回目 13:40～</p>
12:00～ お楽しみ チャリティーオークション	
13:40～ RYUTistライブショー②	
14:10～ 協同組合PRコーナー②	
14:30～ ワンワンとあそぼうショー②	

ふれあい畜産フェスタ2017開催

◆にいがた和牛推進協議会も出店◆

「ふれあい畜産フェスタ2017」（主催：新潟県畜産振興協議会、新潟県）が次のとおり開催されます。

○と き：10月14日（土） 9：30～16：00
（動物ふれあい広場は15:00まで）
○ところ：新潟ふるさと村
（新潟市西区山田2307）

「にいがた和牛推進協議会」では、新潟県産和牛の統一ブランド「にいがた和牛」の消費拡大を図るため、今年も会場内に出店します。

当日は、協議会会員の食肉会社の協力をいただき「にいがた和牛」を特別価格で販売します。

また、「にいがた和牛」を購入された方にスピード三角クジで豪華景品？が当たる催しも用意しております。

「にいがた和牛」のご購入は、早めのご来場をお勧めします。



ロゴマーク



イメージキャラクター「ニーモ」

畜産経営セミナー開催

◆優秀事例の経営方針を学ぼう◆

畜産経営の維持、発展を図るためには生産性の向上及び経営基盤の強化が求められます。そこで、畜産経営者、関係機関及び関係団体の職員等を対象に下記のとおり畜産経営セミナーを開催します。

○と き：10月27日（金） 13：30～15：00
○ところ：JA全農にいがた県本部ビル
（新潟市西区山田2310-15）

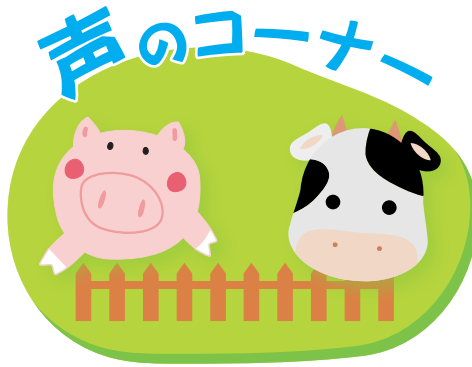
講師には、平成28年度全国優良畜産経営管理技術発表会で最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞された（有）高秀牧場（千葉県いすみ市：酪農経営）代表取締役の高橋憲二様をお迎えし、「中山間地域における国産飼料資源での自給率向上への挑戦 ～地域農業とともに歩む循環型酪農と6次産業化の中で～」と題した講演をしていただきます。

優秀事例の経営方針等を学ぶ絶好の機会です。多くの方の参加をお待ちしております。



養豚経営

関川村蛇喰
南山口ファーム
山口 淳一



酪農経営

胎内市苔ノ実
高井 大輝



『変化』

就農して8年、就農当初から現在まで様々な変化がありました。それは私自身、会社にとっても変化が大きかったように思います。

前職を退職した事を機に就農した頃、養豚以外にも稲作や食品加工業も営んでいるため、人手も足りなかった事もあり就農すれば多少は役に立つだろう、そんな思いもあり就農しましたが、養豚業を営む事、会社を経営するという大変さを当時はそれほど深く考えていませんでした。なにより養豚業の何処が面白いのか、魅力は何なのかと思う事の方が強かったように思います。

豚の生産を行う、ただそう漠然と考えていたので就農後、農場内の仕事量の多さや難しさ、そして会社を経営するという事の難しさに戸惑いました。特に生産性の低さ、疾病が原因による生産性の低さが長年経営を圧迫しているという状況をどうするか、様々な治療や設備面の変更など試行錯誤を行いました。中々思うような結果に結びつかない、そんな状況が長く続きました。

最大の原因は農場の何処なのだろうか、他の農場の方々や獣医師の方々にアドバイスを頂けた中で、特に疾病による肥育ステージでの発育遅延等が離乳や繁殖分娩ステージにも影響を与え、結果、経営全体に大きな影響を及ぼしているとアドバイスを頂きました。

そして昨年から踏込式肥育舎を洗浄可能な方式へ改装、今年4月から稼働しています。徐々にですが改善の傾向が表れ始めており、農場のモニタリングの際、獣医師の方等に今回の投資は間違いではなかったと言われた時は本当にうれしく、この仕事をしていて改めて良かったと思いました。

今回の投資に当たり金融機関からの資金調達、業者の手配や補助申請など、私にとって多くが初めての経験で何から手を付けて良いのか分からないことが多々あった中、改めて多くの方のご理解とご支援を頂いたからこそ出来た事だと思っています。この場を借りて感謝申し上げます。

まだまだ課題は山積していますが、これまでの経験を糧にさらに前進できるよう努めていきたいと思っています。

『これまでとこれからしたいこと』

私は今から約2年前、地元である十日町市から婿として胎内市へやってきました。奥さんの実家は酪農（乳牛）と稲作をしており、今はその家業をしながら過ごしています。

もともと農業大学の稲作科を卒業し、地元の農業法人に3年半勤めていた私は、稲作の知識こそ少しはあったのですが、酪農の方とは言うまわたくのド素人。皆無なわけです。

それでも奥さんと家族から牛のことや作業などを教わったり、酪農青年部に入り若手の皆さんからお話を聞くことで少しずつではありますが、日々牛について勉強しているところです。

しかしながら、わが家の酪農経営は一般の酪農家の皆さんと比べるととても小規模で、何十頭も頭数があるわけではなく、搾乳頭数はわずか6頭、子牛が2頭です。牛が病気にかかることや、出産など、他の酪農家さんなら年に何回も目にするであろう現場も、わが家では半年や1年に1度くらいなので「経験」と言うものが圧倒的に私には足りていません。

なので今は自分で勉強することはもちろん、バーンミーティングなどに参加し他の酪農家の方から知識を得たりと、その時その時を大事にしようと思っています。

そして自分の中での今後の目標としては、30頭、40頭ではなく、頭数を少しずつ増やして10頭台にすること。

今は播種をしていない少ない牧草地があるのですが、これを再生してうまく活用し、牛の食事面を少しずつでも改善させること。

それから奥さんの夢でもあるジェラートの店をいずれは開くこと。これは今では自分の夢でもあります。

決して大規模にしていくのではなく、何年もわが家が続けて来た「頭数が少ないからこそできること」これをさらに追求し発展させ、何がよりベストなのかを常に模索し続けていきたいです。そして誰かの笑顔のために仕事をするという、当たり前のことをこれからもしていきたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

新潟市：(有)フジタファーム代表取締役 藤田 毅

ジェラテリアレガーロができて15年が経ちました。現在、経産牛75頭、育成牛12頭、肥育牛20頭です。認定農場のお話を頂いた時には、長男（光二）が就農していましたので、手続きは全て任せました。消費者に対する気持ちは接客を通して大切にしてきましたし、酪農教育ファームの認証牧場としても、小学生を中心に農業に対する理解促進を図ってきました。認定を受けたことで、品質、環境（人、自然も）の改善により気を配り、地域との連携を大切にしていきたいと思っています。

当牧場は、(有)米工房いわむろとの耕畜連携でデントコーン、飼料米、稲わらの供給を受け、堆肥の還元をおこなっています。(有)レガーロには、牛乳を、(株)藤田牧場には、牛肉、チーズ、米を供給し、農産物や加工品の対外的な販売も行っています。各グループ会社との連携は、循環型農業の実践となり、酪農業こそが核としてふさわしいと思います。このグループがこれから目指すものは、JGAPの認証取得です。東京オリンピック、パラリンピックの食材調達基準の要件をクリアすることは、一般消費者にとって、いままで存在すらしなかったJGAPを認識してもらう大きなチャンスです。しかもJGAPは、認証農場のシールを農産物に貼る事ができるのです！今年の秋すぎには、JGAP家畜、畜産物 2017が登場します。グループとして、各社員の納得のもとゆっくり、じっくり取り組んでいきます。そして、一般消費者を対象にしたバックヤードツアーで理解促進をすすめるとともに、岩室温泉をはじめとした地域の紹介やタイアップをすすめていきたいと思っています。



新役員紹介

齋藤秀雄監事（前全国共済農業協同組合連合会新潟県本部県本部長）から辞任届が提出されたことから、平成29年10月3日に臨時総会を書面にて開催し、全会員の同意（賛成）により以下のとおり選任されました。

役名	氏名	所属
監事	渡邊 弘	全国共済農業協同組合連合会 新潟県本部県本部長

県民公開講座を開催

9月27日（水）、新潟ユニゾンプラザにおいて、当協会が認定を推進する「畜産安心ブランド生産農場」の食の安全・安心への取り組み状況や「畜産物と健康」に関する正しい情報を県民の皆様を提供することで健康増進を図っていただくことを目的として、県民公開講座を開催しました。

講師には東京都健康長寿医療センター研究所 副所長の新開省二先生をお迎えし、「健康長寿の疫学研究からのエビデンス～日本人はもっと畜産食品をとってよい！～」と題した講演をしていただきました。

参加者からは、「畜産物の有用性が理解できた」、「畜産物の見方が変わった」など、有意義であった旨の意見が多く聞かれました。



県民公開講座の様子

編集後記



「にいがた畜産女子会」が発会しました。事務局として少しでも会員のお役に立てたらと思います。楽しく活発な会になりますよう、お手伝いさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先月、北陸・東海・近畿ブロックの会議を新潟で開催しました。県外の方に新潟のよさや美味しいものなどを聞かれたのですが、あまり答えられず・・・(汗) 普段地元において新潟のよさを意識せずに生活していることに気づきました。紙面で紹介させていただいた「協同組合まつり」や「ふれあい畜産フェスタ」では新潟の特産物がたくさん登場します！これらのイベントからも新潟の素晴らしいところを改めて勉強していきたいと思っています。

鈴木(奈) 記